

タイヤリフター Brother 70 登場



これはタイヤリフター Partner (パートナー) 70の後継機となります。バッテリー

新製品 Brother 70 (以下ブラザー70)の発売における基本的概念で特長について同社商品企画部の森本課長は『タイヤの作業に従事されている方の高齢化が進む中、当社製品をご使用いただく事により労力をいかに軽減させるか。それは東洋精器工業が提供するべき時代に突入した』と申すことができます。

これはタイヤリフター Partner (パートナー) 70の後継機となり、早速、実機の動きや特長を見せてもらった。

「リフターを大いに活用する」と思っています。これはタイヤリフター Partner (パートナー) 70の後継機となり、早速、実機の動きや特長を見せてもらった。



ラクラク作業を実現



操作パネル

操作パネルは電源ボタンとリフトの上下、スピードコントロール、バッテリー残量計だけと非常にシンプルで操作性は抜群だ。

前輪は通常の状態から45度、90度と三段階の可変式。これにより、重量タイヤを作業する際にバランスが不安定になるのを防ぐとともに、二柱四柱リフト、床面フラット式リフト含め、ほとんどのカーリフトでの使用適応を可能にしている。

また、床面フラット式リフトでの使用中にも前輪が脱輪した場合でもサフキャスターの働きにより転倒を防止する安全構造を備えている。

実際の作業ではリフトアップした車両のホイールナットを森本さんがインパクトレンチで外していく。そしてブラザー70をセットする。この時、フォーク部が左右にスライドする新機構により、一般的に使用されているタイヤリフターは昇降フォーク位置が固定されているため、タイヤとフォークの位置関係を正しくセットするのが面倒なのと、リフター支柱の左右

どちら側からしか作業ができないという制限がある。これに対しブラザー70は左右どちらからでも作業が可能だ。

フォークはエクステンション式になっており、必要に応じ長さを延長することが可能。

170に支えられ、作業者は体力を使わずに、コントロールは下降させる際、下限付近で一旦停止する機構になっている。これは前述の可変前輪とフォークの接触を防ぐ確認を促すための安全装置だ。

作業中に部品や工具を置くためのトレイやトルクレンチを置くフックも備えている。また、前方過重に備えたカウンタウエイトは着脱式になっており、使い勝手が良い。ブラザー70。使用環境の制限をほぼ受けず省力化に貢献する、安全で操作が簡単な新次元のリフターが登場した。注目の新製品といえるだろう。